

佐久市電気事業経営戦略について

事業概要

発電所 太陽光発電「佐久市メガソーラー発電所」
最大出力 1,990kW
発電電力量 280万kWh(年間平均)
役割 年間約1,452tのCO2排出量の削減に貢献

発電所 水力発電「平根マイクロ水力発電所」
最大出力 10kW
発電電力量 2万kWh(年間平均)
役割 年間約10tのCO2排出量の削減に貢献

経営戦略策定の趣旨

公営企業は独立採算性を原則としており、事業を安定的に継続するため、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定し、経営基盤の強化と財務マネジメントの向上に取り組む。

計画期間

平成30年度～平成45年度

経営の基本方針

地球温暖化対策への取り組み及び再生可能エネルギーの導入を促進するとともに、市有地の有効活用を図るため、佐久市が発電事業者として太陽光発電や水力発電事業を実施し、環境負荷の小さい地域をつくりあげる。

収支計画

発電した電力は、再生可能エネルギー固定価格買取制度により20年間、全量を1kWhあたり40円(税抜)で売電し、施設リース料の支払いに充てる。

収支見込み 9億6千万円 (4,800万円/年)

事業収益は今後の環境対策事業に活用するとともに、災害や故障等による長期停止での減収リスクに備えるため、売電収益の一部を「環境エネルギー事業基金」に積立てる。

[収入]

収入財源

売電収入 28億円

年1億4千万円の売電収入が20年あると仮定して算定。

[支出]

投資的経費

リース料支払い総額 17億8,630万円

有限責任事業組合佐久咲くひまわりと締結した包括的なリース契約に基づく施設。リース料には建設費用のほか、施設の維持管理、各種保険及び事業終了時の撤去費用等も含まれている。

投資以外の経費

一般管理費 5,000万円

保安管理業務の委託料、敷地内の草刈委託料、需用費等がある。
年250万円の一般管理費が20年支払うものと仮定して算定。

経営戦略の事後検証

発電量等のモニタリングを実施し、経営戦略の事後検証、見直しを行う。